

令和5年度 江東商業高等学校 年間授業計画（1学年用）

教科：（地歴） 科目：（地理総合） 単位数：（2単位） 対象：（第1学年A組～E組）

教科担当者：（A組：鈴木）（B組：鈴木）（C組：鈴木）（D組：鈴木）（E組：串岡）

使用教科書：（『高等学校 地理総合—世界を学び、地域をつくる』（第一学習社））

教科・科目の目標：

地理学習において主体的・対話的で深い学びを実現するために、社会的諸事象の地理的な見方・考え方に根ざした追究の視点とそれを活かして解決すべき課題を設定し、その課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化が進み国際理解の必要性が増している現代において主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての重要な資質・能力を培う。

評価の観点：

【知識・技能】：知	【思考・判断・表現】：思	【主体的に学習に取り組む態度】：主
世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球の課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的にしらべまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。

単元項目	学習内容	評価規準	評価の観点			配当 時数	
			知	思	主		
1 学期	第1編 1章 地図や地理情報システムと現代世界 1節 球面上の世界と地図 ①目的地向けの行き方 ②地球上の位置 ③世界の時差 ④世界地図の見方・使い方 ⑤地図から読み取る情報 ⑥デジタル化された地図 ⑦地理情報システムの活用	・地球上の位置をあらわすために緯度・経度が定められたことと、地軸の傾きによる季節変化と時差の存在を理解し、教科掲載の時差の計算のワークに積極的に取り組むことで、日本の標準時における諸外国の時間と生活のようすを想像することができる。 ・メルカトル図法、正積図法、正距方位図法の特徴と欠点を、知識として身につけるとともに、地球儀と世界地図を用いて、球面を平面に表現する際の特徴と問題点を、考えることができる。	(知)・世界地図の主な図法と利用について理解できたか。時差の計算について、理解できたか。 (思)・球体としての地球の観点から、図を活用して地球上の位置や時差の仕組みをとらえ、説明できたか。 (主)・球体としての地球の把握に向け意欲的に探究し、作業や考察に取り組むことができたか。様々な世界地図の違いに関心を持ち、資料などから様々な世界地図の存在に気づくことができたか。	○	○	○	6
	2節 国家の結びつきとグローバル化する社会 ①国家の領域と国境 ②日本の領域とさまざまな領土問題 ③国家をこえた結びつき ④交通機関の発達と縮小する世界 ⑤情報・通信で一体化する世界 ⑥拡大する世界の貿易と物流 ⑦グローバル化と人の移動による結びつき	・人々の生活様式の差異を通して、地理的環境が及ぼす影響について学ぶ。 ・現代世界を構成する基本単位の国家とは何かを理解し、交通・通信の発達によって、生活、社会、産業、国家間の関係がどのように変化したかを時系列で理解する。 ・さまざまな情報手段を用いて、現在世界で起こっている国境・領土問題について調べるとともに、日本の領域と周辺国との領土問題はどのようなものが存在するか、理解する。	(知)・人・モノ・情報の結びつきに関する知識を身につけたか。統計資料から分布や変化などの特徴を見出す技能を身につけたか。 (思)・複数の統計地図を結びつけ、世界の結びつきや偏りについて考察したことを説明できたか。地図で示す主題によって統計地図の表現方法が異なることを考察できたか。 (主)・統計資料を意欲的に読み取り、それを表現できたか。統計地図の作成に意欲的に取り組むことができたか。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		
1 学期	第2編 国際理解と国際協力 1章 生活・文化の多様性と国際理解 ①世界の生活・文化を写真でつかもう ②人々の生活に彩りを与える気候 ③「衣」から見る世界 ④「食」から見る世界 ⑤「住」から見る世界 ⑥暮らしを豊かにする産業 ⑦宗教と人々の暮らし ⑧暮らしを楽しむための文化 ⑨多様性に富んだ世界の人々との共生	・図書館の本やインターネットから、世界の生活・文化を示した写真を探し、写真の中にある地理的環境を読み取り、世界は地理的環境の影響を受けた特徴ある景観で成り立っていることを学ぶ。 ・人々の生活様式の差異を通して、地理的環境が及ぼす影響について学ぶ。 ・その地域の自然環境と、歴史や文化といった社会環境の影響を色濃く受けた世界の特色ある生活文化を、さまざまな衣食住の事例を通して学ぶ。	(知)・世界の自然環境は地域的に大きく異なることを、気候の面から理解できたか。 (思)・世界の気候帯ごとに、どのような特徴があり、どのような生活が営まれているのかを理解できたか。 (主)・図書館の本やインターネットから、世界の生活・文化を示した写真を探し、写真の中にある地理的環境を読み取り、世界は地理的環境の影響を受けた特徴ある景観で成り立っていることを理解できたか。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		

2 学 期	第2編 国際理解と国際協力 2章 地球的課題と国際協力 1節 持続可能な社会を目指して ①持続可能な開発目標（SDGs） ②地球的課題の地理的な側面 2節 すべての人々の尊厳と平等が守られた社会に向けて ①貧困問題 ②人口問題 ③食料問題 ④持続可能な水の利用 ⑤健康・福祉問題 ⑥教育・ジェンダー問題	・5つのPの枠組みを活用して、持続可能な開発目標（SDGs）の考え方を学び、地理で学習する地球的課題が教科をこえた探究的な課題につながることを理解する。 ・人口問題について、先進国の少子・高齢化、発展途上国の人口爆発という対照的な問題が起こっていることを理解する。 ・食料問題について、食料分配の不等差が飢餓と飽食の地域差を生み出していることを理解する	（知）・世界人口の増加で生じる問題を世界的視野から理解し、人口増加地域と人口停滞地域における人口問題の違いを整理できたか。 （思）・世界の人口問題の現状を資料を比較しながらまとめ、日本の人口問題についての提言を他国と比較しながら考察できたか。 （主）・人口問題と食料問題をそれぞれ捉えながら、両者のつながりを図表などを用いて意欲的に整理し、国際社会の一員として取り組む国際協力を具体的に追究できたか。	○	○	○	8
	3節 自然と調和した豊かな社会に向けて ①技術革新と持続可能な産業化 ②限りある資源 ③エネルギー問題 ④都市・居住問題	・持続可能なライフスタイルの実現には、さまざまな認証制度を活用した消費者としての行動が重要であることを理解し、身近な認証制度を調べ、まとめる。 ・資源・エネルギー問題について、資源の限界性と偏在性を理解し、原子力発電を含む世界のエネルギー利用の変化と新エネルギー開発の必要性について考察する。 ・居住・都市問題について発展途上国ではスラム、先進国ではインナーシティ問題などが現れていることを理解する。	（知）・主題図から資源の分布が偏在していることを理解できたか。 ・限りある資源の問題を解決するためのリサイクルや再生可能エネルギーのしくみを理解できたか。 （思）・主題図などをもとに鉱物資源とエネルギー資源の分布と今後の将来需要を予測し、SDGsの目標をふまえて今後必要な鉱物やエネルギーの利用について提案できたか。 （主）・日常利用されている鉱物資源やエネルギー資源を調べ、その輸入先やリサイクルなどの現状を意欲的に探究し、持続可能な利用について追究できたか。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		
	4節 現役世代と将来世代のための地球 ①地球温暖化問題 ②陸地の環境問題 ③海洋の環境問題	・地球環境問題のうち、酸性雨・地球温暖化・森林破壊と生物種の減少・砂漠化を例に学び、世界的な取り組みと地域に応じた取り組みが必要であることを理解する。 ・生物多様性に配慮した持続可能な産業や生活文化が身近なところで営まれていることを理解する。	（知）・国際社会の中で日本が果たすべき役割を認識し、国際協力について、グローバルに考える視点と身近な問題として考える視点を身につける。 （思）・世界各地で起きている地球環境問題について、地域性や歴史的背景、日常生活との関連や国際社会の変化をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 （主）・一定地域の地理的環境と深く関連し、長い歴史をとおして育まれた民族性について理解した上で、現在発生している民族問題の解決に向けた取り組みを提案することができる。	○	○	○	8
	5節 平和で公正な社会に向けて ①世界の民族と民族問題 ②世界のさまざまな紛争 ③さまざまな対立の解決に向けて ④国際協力とパートナーシップ	・世界の民族とは、共通の帰属意識（アイデンティティ）を持つ集団であり、世界の多くの国は複数の民族により構成される多民族国家であり、多文化社会を構成して多民族が共生している国もあれば、内部に対立を抱える国も存在することを理解できる。 ・NGOやNPOによる国際協力や、CSRにもとづいた企業の国際協力、消費者の立場で自ら取り組む国際協力など、さまざまな形のパートナーシップについて理解できる。	（知）・深刻さを増す民族問題・難民問題についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。 （思）・民族問題・難民問題について、地域性や歴史的背景、日常生活との関連や国際社会の変化をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 （主）・地球規模での解決がせまられる民族問題・難民問題に対する関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○	○	○	8
定期考査			○	○			
3 学 期	第3編 持続可能な地域づくりと私たち 1章 自然環境と防災 ①地球規模で見る地形の姿と自然災害 ②人々の暮らしを取りまく自然環境	・変動帯はプレートテクトニクスによって説明され、日本列島は4つのプレートがぶつかり合っていることを理解する。 ・自然災害の多い日本列島で、人々の生活に大きな影響を与える火山災害・水害・地震について、自然現象やこれまで受けてきた災害の歴史を理解するとともに、先人の知恵が詰まった、災害に備え、災害とともに暮らす生活について関心をもって考察する。	（知）・世界を大きく変動帯と安定大陸で分類し、多くの自然災害は変動帯で起きていることを理解する。 （思）・教科書に掲載されている写真や地図・図版を適切に参照し、自然災害が多発する日本列島に、豊かな文化が築かれた背景を考察する。 （主）・生活に影響を与えている気候、局地的な気候について理解し、気候によって異なった特徴を見せる生活・文化について、インターネットや周りの人から具体例を積極的に聞き出し、グループで話し合う。	○	○	○	8
	③変動帯の自然と防災 ④湿润地域の自然と防災 ⑤私たちができる災害への備え	・地形の状態に応じて暮らしてきた日本の村落・都市立地を理解し、地形変化による生活環境の変化が人々の暮らしにどのような影響をもたらしたか考察する。 ・自然災害に備えるためには日常の備えが重要であり、減災に向けた地域防災力の向上が重要であることを理解する。	（知）・変動帯で見られる地震や火山の特徴を体系的に学び、その備えについて具体例を通して理解する。 （思）・自助・共助・公助の観点から、防災・減災へ向けた取り組みとその課題について、各地域におけるさまざまな事例をもとに考察し、その過程や結果を適切に表現している。 （主）・自然災害に備えるためには、ハザードマップや緊急地震速報の有用性を認識するとともに、災害に強い地形や環境について理解し、災害に見舞われた際になるべく被害を減らせる（減災）できるよう、地域防災力を高めるために個人ができることを積極的に話し合う。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		
	合計						70